

- 3日 ○内閣府、2020年1-3月期のGDP（2次速報（改定値））を発表
 実質GDP成長率は、季調済前期比 $\Delta 0.6\%$ （年率換算 $\Delta 2.2\%$ ）となり、2四半期連続のマイナス成長（2次速報と同じ伸び率）
 名目GDP成長率は、同 $\Delta 0.5\%$ （年率換算 $\Delta 1.9\%$ ）となり、2四半期連続のマイナス成長（2次速報と同じ伸び率）
 GDPデフレーターは、同 $+0.1\%$ となり5四半期連続のプラス、前年比は $+0.9\%$ と5四半期連続のプラス（2次速報と同じ伸び率）
 ○自販連、7月の国内新車販売台数を発表
 国内新車販売台数（含む軽）は、39万6,346台で前年比 $\Delta 13.7\%$ と10か月連続の減少
 ○米供給管理協会、7月のISM景況指数（製造業）を発表
 総合指数は 54.2% と前月（ 52.6% ）から上昇
- 5日 ○米商務省、6月の貿易・サービス収支を発表
 貿易・サービス収支（国際収支ベース）は $\Delta 507$ 億ドルとなり、前月（ $\Delta 548$ 億ドル）から赤字額は減少
- 6日 ○イングランド銀行（BOE）、金融政策委員会を開催
 ・政策金利（ 0.10% ）の据え置き、
 ・資産買入れ枠を維持（総額7,450億ポンド）
- 7日 ○内閣府、6月の景気動向指数（CI）（速報）を発表
 先行指数は 85.0 （前月差 $+6.7$ ポイント）で2か月連続の上昇、一致指数は 76.4 （前月差 $+3.5$ ポイント）で5か月ぶりの上昇、遅行指数は 93.3 （前月差 $+0.8$ ポイント）で7か月ぶりの上昇、基調判断は「悪化を示している」とし据え置き
 ○総務省、6月の家計調査（二人以上の世帯）を発表
 実質消費支出は前年比 $\Delta 1.2\%$ と9か月連続の減少、季調済前月比は $+13.0\%$ と4か月ぶりの増加
 基調判断は「一年前と比べた6月の世帯の消費支出は、緊急事態宣言が5月に解除されたことに加え、特別定額給付金等が消費を後押しし、5月に比べて減少幅が大幅に縮小したが、新型コロナウイルス感染症の影響が続いており、引き続き、今後の動向に注視が必要」とし上方修正
 ○厚生労働省、6月の毎月勤労統計（速報）を発表
 現金給与総額（共通事業所系列）は前年比 $\Delta 2.1\%$ （うち所定内給与は同 $\Delta 0.3\%$ 、所定外給与は同 $\Delta 25.7\%$ 、特別給与は同 $\Delta 2.0\%$ ）となり3か月連続のマイナス
 ○米労働省、7月の雇用統計を発表
 非農業部門の雇用者数は前月比176.3万人増、過去2か月分は修正（6月分は同479.1万人増に下方修正（ $\Delta 0.9$ 万人）、5月分は同272.5万人増に上方修正（ $+2.6$ 万人）
 失業率は 10.2% と前月（ 11.1% ）から低下
- 中国海関総署、7月の貿易収支を発表
 貿易収支は $+623$ 億ドルと5か月連続の黒字、輸出は $2,376$ 億ドルで前年比 $+7.2\%$ と2か月連続のプラス、輸入は $1,753$ 億ドルで前年比 $\Delta 1.4\%$ と2か月ぶりのマイナス
- 11日 ○内閣府、7月の景気ウォッチャー調査を発表
 景気の現状判断DIは前月差 $+2.3$ ポイントの 41.1 となり3か月連続の上昇、先行き判断DIは前月差 $\Delta 8.0$ ポイントの 36.0 となり3か月ぶりの低下
 景気現状の基調判断は「新型コロナウイルス感染症の影響による厳しさは残るものの、持ち直しの動きがみられる。先行きについては、持ち直しへの期待がみられるもの、感染症の動向に対する懸念が強まっている。」とし据え置き
 ○財務省、6月の国際収支状況（速報）を発表
 経常収支は $1,675$ 億円、前年比 $\Delta 1$ 兆 856 億円（黒字幅縮小）で72か月連続の黒字
 ○東京商工リサーチ、7月の全国企業倒産状況を発表
 倒産件数は789件（前年比 $\Delta 1.6\%$ ）と2か月ぶりの前年比マイナス、負債総額は $1,008$ 億円（同 $+7.9\%$ ）、倒産企業の従業員数は $3,763$ 人（同 $+1.2\%$ ）、上場企業倒産は0件
- 12日 ○日本銀行、7月のマネーストック（速報）を発表
 M2は前年比 $+7.9\%$ 、M3は同 $+6.5\%$ 、広義流動性は同 $+4.8\%$
 ○米労働省、7月の消費者物価指数を発表
 総合指数は前年比 $+1.0\%$ 、前月比 $+0.6\%$ 、食品とエネルギーを除いたコア指数は前年比 $+1.6\%$ 、前月比 $+0.6\%$
 ○英政府統計局、2020年4-6月期のGDP（速報）を発表
 実質GDP成長率は前期比 $\Delta 20.4\%$ 、年率 $\Delta 59.8\%$
- 13日 ○日本銀行、7月の企業物価指数（速報）を発表
 前年比 $\Delta 0.9\%$ となり、5か月連続のマイナス
- 14日 ○国土交通省、6月の建設工事受注動態統計を発表
 公共工事受注額は前年比 $\Delta 0.3\%$ で5か月ぶりの減少
 ○東日本建設業保証会社等、7月の公共工事前払金保証統計を発表
 公共工事請負金額は前年比 $\Delta 4.1\%$ で2か月ぶりのマイナス
 ○米連邦準備制度理事会（FRB）、7月の鉱工業生産を発表
 生産は季調済前月比 $+3.0\%$
 ○米商務省、7月の小売売上高を発表
 総合は季調済前月比 $+1.2\%$ 、自動車・同部品を除くと前月比 $+1.9\%$
- 17日 ○内閣府、2020年4-6月期のGDP（1次速報）を

日誌

(8 月 中)

<p>発表 実質GDP成長率は、季調済前期比$\Delta 7.8\%$（年率換算$\Delta 27.8\%$）となり、3四半期連続のマイナス成長 名目GDP成長率は、同$\Delta 7.4\%$（年率換算$\Delta 26.4\%$）となり、3四半期連続のマイナス成長 GDPデフレーターは、同$+0.5\%$となり6四半期連続のプラス、前年比は$+1.5\%$と6四半期連続のプラス</p> <p>19日 ○内閣府、6月の機械受注統計を発表 民需（除く船舶・電力）は季調済前月比$\Delta 7.6\%$と2か月ぶりの減少 基調判断は「機械受注は、減少している」とし下方修正</p> <p>○財務省、7月の貿易統計（速報）を発表 輸出は自動車、自動車の部分品等が減少し、前年比$\Delta 19.2\%$の5兆3,689億円、輸入は原油、液化天然ガス等が減少し、同$\Delta 22.3\%$の5兆3,572億円、貿易収支は+116億円で4か月ぶりの黒字</p> <p>21日 ○総務省、7月の消費者物価指数を発表 生鮮除く総合は前年比0.0%となり、2か月連続の横ばい</p> <p>○国土交通省、6月の建設総合統計を発表 公共工事出来高は前年比$+6.3\%$で、15か月連続のプラス</p> <p>27日 ○政府、8月の月例経済報告を発表 景気の基調判断を「景気は、新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるが、このところ持ち直しの動きがみられる。」とし据え置き</p> <p>○米連邦準備制度理事会（FRB）、米連邦公開市場委員会（FOMC）が声明を発表 ・FOMCは長期にわたって平均で2%のインフレ率を目指す。インフレ率が継続的に2%を下回り</p>	<p>続けた後は、適切な金融政策は、しばらくの間、2%を緩やかに超えるインフレ率の達成を目指す ・雇用の最大化は広範囲かつ包括的な目標である。 金融政策の決定は、雇用の最大化水準との間の不足分の評価に基づいて行わなければならない</p> <p>31日 ○経済産業省、7月の商業動態統計を発表 小売業販売額は前年比$\Delta 2.8\%$で5か月連続の減少、季調済前月比は$\Delta 3.3\%$で3か月ぶりの減少 基調判断は「緩やかに持ち直しているものの、一部に弱さが見られる小売業販売」とし下方修正</p> <p>○経済産業省、7月の鉱工業指数（速報）を発表 生産は季調済前月比$+8.0\%$、出荷は同$+6.0\%$、在庫は同$\Delta 1.6\%$ 基調判断は「持ち直しの動きがみられる」とし表現変更</p> <p>○国土交通省、7月の建築着工統計調査を発表 新設住宅着工総戸数（原数値）は、70,232戸（前年比$\Delta 11.4\%$）と13か月連続の減少、季調済年率は82.8万戸（前月比$+4.8\%$）と2か月ぶりの増加</p> <p>○中国国家统计局、8月の製造業PMI（購買部担当者指数）を発表 総合指数は51.0ポイントと前月（51.1）から低下</p> <p>東証株価指数（TOPIX）第1部（終値） 月間最高値 1,625.23（25日） ＊ 最安値 1,522.64（3日）</p> <p>日経平均株価（終値） 月間最高値 23,296.77円（25日） ＊ 最安値 22,195.38円（3日）</p> <p>東京外為市場（ドル・円相場、銀行間直物、17時時点） 月間最高値 105.43円（19日） ＊ 最安値 106.79円（12日）</p>
--	---